

I 須磨翔風高等学校のしくみ

1 総合学科とは

各自の進路に応じて、共通教科から専門教科にわたる多様な開設科目の中から、自ら学ぶ科目を選択できることが第一の特色です。

また「キャリアプランニング」等の学習を通して進路に関する学習が重視されていることも特色です。

2 共通教科と専門教科とは

共通教科には、国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報の 10 教科があります。

専門教科には、商業、家庭、情報、福祉、体育、音楽、美術、教育の 8 教科があります。

3 科目選択について

各教科にはいくつかの科目があります。例えば、「国語科」という教科には、「現代の国語」、「言語文化」、「論理国語」等の科目があります。

(1) 科目について

① 必修科目とは

卒業までに全員が必ず履修しなければならない科目です。

例) 現代の国語、言語文化、歴史総合、公共、数学Ⅰ、体育、保健、論理・表現Ⅰ、
英語コミュニケーションⅠ、化学基礎、家庭基礎、情報Ⅰ、
産業社会と人間（キャリアプランニングⅠ）、
総合的な探究の時間（人間関係・キャリアプランニングⅡ・Ⅲ）

② 選択必修科目とは

いくつかの科目の中から各自の希望に応じて選択する必修科目です。

例) 音楽Ⅰ、美術Ⅰ、書道Ⅰの中から 1 科目を履修（1 年次）
物理基礎、生物基礎、地学基礎の中から 2 科目を履修（2 年次）

③ 全履修科目とは

必修修ではありませんが、全員が履修します。

例) 数学A、論理国語（2・3 年次）、英語コミュニケーションⅡ・Ⅲ

④ 選択科目とは

各自の進路や興味・関心に応じて選択する科目です。

(2) 選択の条件について

- ① 2・3年次を見通した履修計画を作ります。
- ② 各年次とも、1週間に34時間の時間割を組むように選択します。
- ③ 科目名の後ろに番号のついているもの

[科目名の後ろにⅠ・Ⅱのついているもの]

履修の順序を示しています。Ⅰの科目を履修した後で、必要に応じてⅡの科目を履修します。

[科目名の後ろに①・②のついているもの] (例：論理国語①、論理国語②)

履修の順序を示しています。①の科目を履修した後に、必ず②の科目を履修しなければなりません。これは分割履修といい、①②とも履修が認められなければ、その科目を履修したと認められません。

(3) 講座開講基準について

履修の希望者が少ない科目は、開講しない場合があります。開講の基準は原則として10人です。

4 単位について

(1) 単位と履修

1単位とは、1週間に1時間(50分)の授業を、年間35週を目標に行うことをいい、その授業に出席することを履修といいます。例えば、1年次の授業では、2単位の「公共」は1週間に2時間の授業があり、1年間その授業に出席すれば、「公共」を2単位履修したことになります。ただし、一度履修した科目を再び履修することはできません。

(2) 修得と単位認定

それぞれの科目を履修した上で、その科目の成果が、定められた以上の評価を得た場合に、その科目を修得したことになり単位が認定されます。例えば、「数学Ⅰ」の履修と修得が認められると、「数学Ⅰ」の単位が3単位認定されることになります。

(3) 特別活動、卒業認定など

3年間に履修した各科目の単位が認定され、特別活動(HR・各種学校行事)への参加状況が良い場合、高校卒業が認定され大学等の受験資格が得られます。

5 教育課程（カリキュラム）とは

在学中に履修できる科目を年次ごとに一覧に示したものを、教育課程といいます。

(1) 必履修科目（本校を卒業するために、必ず履修しなければならない教科・科目）

教科	科目	単位	備考
国語	現代の国語	2	
	言語文化	2	
地理歴史	歴史総合	2	
	地理総合	2	
公民	公共	2	
数学	数学Ⅰ	3	
理科	化学基礎	2	化学基礎は1年次で全員履修 ○左記の3科目から2年次で2科目を選択すること。 ○卒業には4科目のうち3科目の履修認定が必要。
	物理基礎	※2	
	生物基礎	※2	
	地学基礎	※2	
保健体育	体育	8	
	保健	2	
芸術	音楽Ⅰ	※2	○左記の3科目から1科目を選択する。
	美術Ⅰ	※2	
	書道Ⅰ	※2	
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	
	論理・表現Ⅰ	2	
家庭	家庭基礎	2	
情報	情報Ⅰ	2	
合計単位数		40	

(2) 上記以外の、必履修科目

1年次：キャリアプランニングⅠ(2)、人間関係(1)

2年次：キャリアプランニングⅡ(1)

3年次：キャリアプランニングⅢ(2)

(3) 全履修科目（全員が履修する教科・科目）

教科	科目	単位	備考
国語	論理国語	5	
数学	数学A	2	
外国語	英語コミュニケーションⅡ	4	
	英語コミュニケーションⅢ	4	
合計単位数		15	

6 科目群について

科目群は関連する科目の集まりで、各自のキャリアに応じて選択する。

注：（ ）内の数字は単位数、◎は学校設定科目。

科目群	教科	選択科目		
		2年次	2・3年次	3年次
国際 ・ 文化	国 語	古典探究 (4)p. 30	文学国語 (4)p. 50 国語表現 (4)p. 50	◎古典演習 (2)p. 59 ◎古典 (2)p. 60 ◎現代文演習 (2)p. 60
	地 歴	世界史探究 (4)p. 31 日本史探究 (4)p. 31	—	◎発展世界史 (4)p. 61 ◎発展日本史 (4)p. 62
	公 民	政治・経済 (2)p. 32 倫理 (2)p. 32	—	◎公民科目研究 (2)p. 62 ◎時事問題 (2)p. 63
	外国語	論理・表現Ⅱ (2)p. 33 ◎スピーキング A (2)p. 33 ◎応用英語読解研究 A (2)p. 34 ◎基本英語読解研究 A (2)p. 34 ◎スタンダード・ライティング (2)p. 35	◎初級ハングル (2)p. 51	論理・表現Ⅲ (2)p. 64 ◎スピーキング B (2)p. 64 ◎応用英語読解研究 B (2)p. 65 ◎基本英語読解研究 B (2)p. 65 ◎アドバンス・ライティング (2)p. 66

科目群	教科	選択科目		
		2年次	2・3年次	3年次
科学 ・ 環境	数 学	数学Ⅱ (4)p. 35 数学B (2)p. 36 ◎教養数学 (2)p. 36	—	数学Ⅲ (4)p. 66 数学C (2)p. 67 ◎数学演習ⅠA (2)p. 67 ◎数学ⅠA探究 (2)p. 68 ◎数学ⅡB探究 (2)p. 68
	理 科	物理基礎 (2)p. 37 生物基礎 (2)p. 37 地学基礎 (2)p. 38 化学 (6)p. 38 ◎看護医療生化学 (2)p. 39	—	物理 (6)p. 69 生物 (4)p. 69 ◎応用生物 (2)p. 70 ◎物理探究 (2)p. 70 ◎化学探究 (2)p. 71 ◎生物探究 (2)p. 71 ◎物理基礎探究 (2)p. 72 ◎化学基礎探究 (2)p. 72 ◎生物基礎探究 (2)p. 73

科目群	教科	選択科目		
		2年次	2・3年次	3年次
福祉 ・ 健康	保健体育	◎競技スポーツ (2)p. 39	—	◎専門スポーツ (2)p. 73 ◎福祉スポーツ (2)p. 74
	家 庭	◎生活文化研究 (2)p. 40 ◎スポーツ栄養 (2)p. 41	保育基礎 (2)p. 51	保育実践 (2)p. 74 栄養 (2)p. 75 ◎生活環境 (2)p. 75
	福 祉	—	社会福祉基礎 (2)p. 52 コミュニケーション技術 (2)p. 52 ◎福祉住環境 (2)p. 53	◎介護基礎 (2)p. 76 ◎レクリエーション学 (2)p. 76

科目群	教科	選択科目		
		2年次	2・3年次	3年次
経営 ・ 情報	情報	情報デザイン(4)p. 41	メディアとサービス(2)p. 53	情報の表現と管理(2) p. 77
	商業	情報処理(2)p. 42 簿記(4)p. 43 原価計算(2)p. 43	観光ビジネス(2)p. 54	ソフトウェア活用(2)p. 77 財務会計Ⅰ(4)p. 78 課題研究(2)p. 78 ビジネスコミュニケーション(2)p. 79 ビジネス法規(2)p. 79 マーケティング(2)p. 80

科目群	教科	選択科目		
		2年次	2・3年次	3年次
教育 ・ 人間	芸術	音楽Ⅱ(2)p. 44 美術Ⅱ(2)p. 44 書道Ⅱ(2)p. 45 ソルフェージュⅠ(2)p. 46	—	◎筆の書(2)p. 80 ◎実用の書(2)p. 81 ソルフェージュⅡ(2)p. 82 器楽(2)p. 83 ビジュアルデザイン(2)p. 83 絵画(2)p. 84
	教育	◎教育入門・体験(2)p. 47 ◎学内教育実習プログラム(2)p. 47	—	◎教育問題の理解と発信(2)p. 84

7 シラバスの見方など

- (1) 自分の進みたい進路を決定し、その進路を実現するために必要な科目を調べる。
- (2) 必要な科目が決まったら、シラバスで該当する科目を選び履修条件や科目目標を確認する。
- (3) 具体例
受験希望大学が共通テストの受験を求めている場合、「大学入試共通テスト」等の資料から受験に必要な科目を確認し、本校で用意している科目の中から選択する。
- (4) 各自の選択した科目にしたがって 34 単位分の時間割を作る。

必修科目と選択科目

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34		
1 年 次	現代の 国語		言語 文化		公共		数学Ⅰ			数学A		化学 基礎		歴史 総合		体育			保健	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ	英語コミュニ ケーション Ⅰ			論理 表現 Ⅰ		家庭 基礎		情報Ⅰ		人間 関係	CPⅠ		HR			
2 年 次	論理 国語		英語コミュニケー ションⅡ			体育			保健	物理基礎 生物基礎 地学基礎 (2科目選択)			地理 総合		選択科目16時間																			CPⅡ	HR	
3 年 次	論理 国語		英語コミュニケー ションⅢ				体育			選択科目22時間																									CPⅢ	HR

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	
1 年 次	現代の 国語		言語 文化		公共		数学Ⅰ			数学A		化学 基礎		歴史 総合		体育			保健	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ	英語コミュニ ケーション Ⅰ			論理 表現 Ⅰ		家庭 基礎		情報Ⅰ		人間 関係	CPⅠ		HR		
2 年 次	論理 国語		英語コミュニケー ションⅡ				体育			保健	物理基礎 生物基礎 地学基礎 (2科目選択)			地理 総合		CPⅡ																		HR	
3 年 次	論理 国語		英語コミュニケー ションⅢ				体育			CPⅢ																									HR

8 技能審査の成果の単位認定について

下の表の技能審査（いわゆる検定）に対応する科目の単位を修得し、かつ在学中に技能審査に合格した場合、対応する科目の増加単位として認めることができます。

例えば、「簿記」を履修している生徒が、在学中に「1級会計」に合格した場合、「簿記」の4単位に、技能審査の成果分の2単位を加えて、6単位を修得したことになります。総合学科推薦を考えている人は、効果的に活用できます。

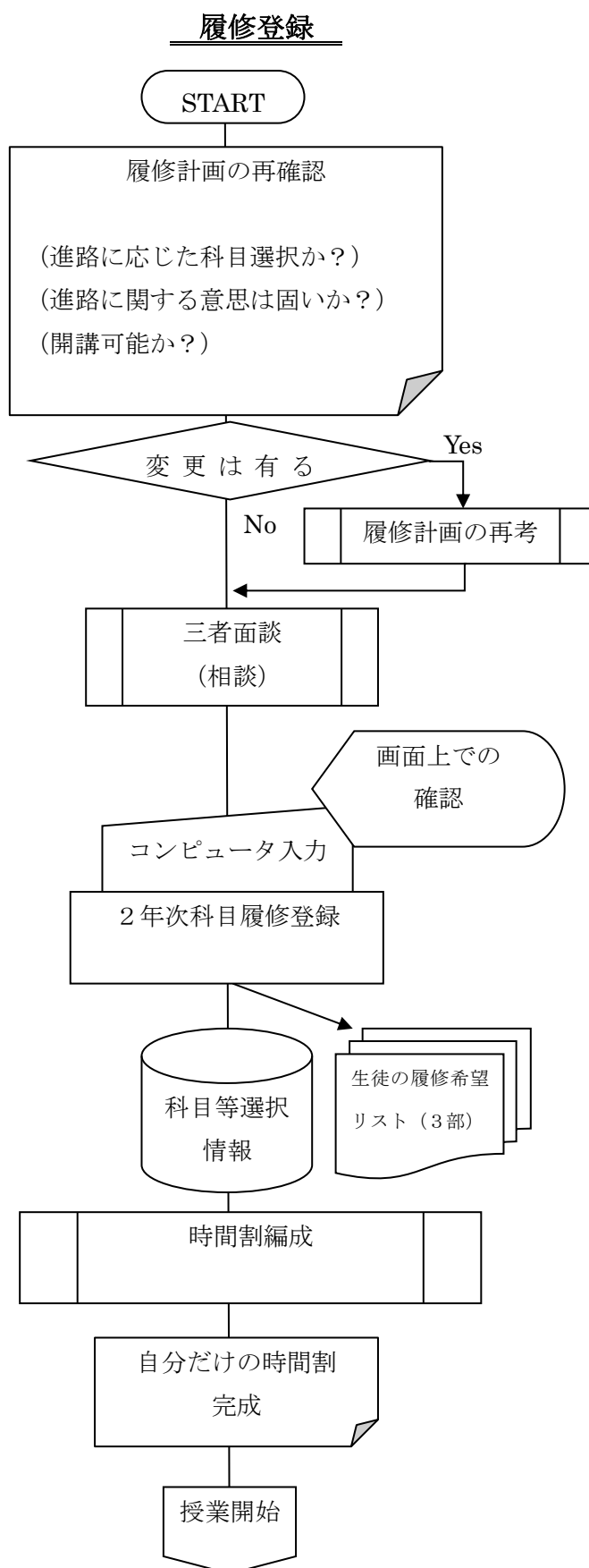
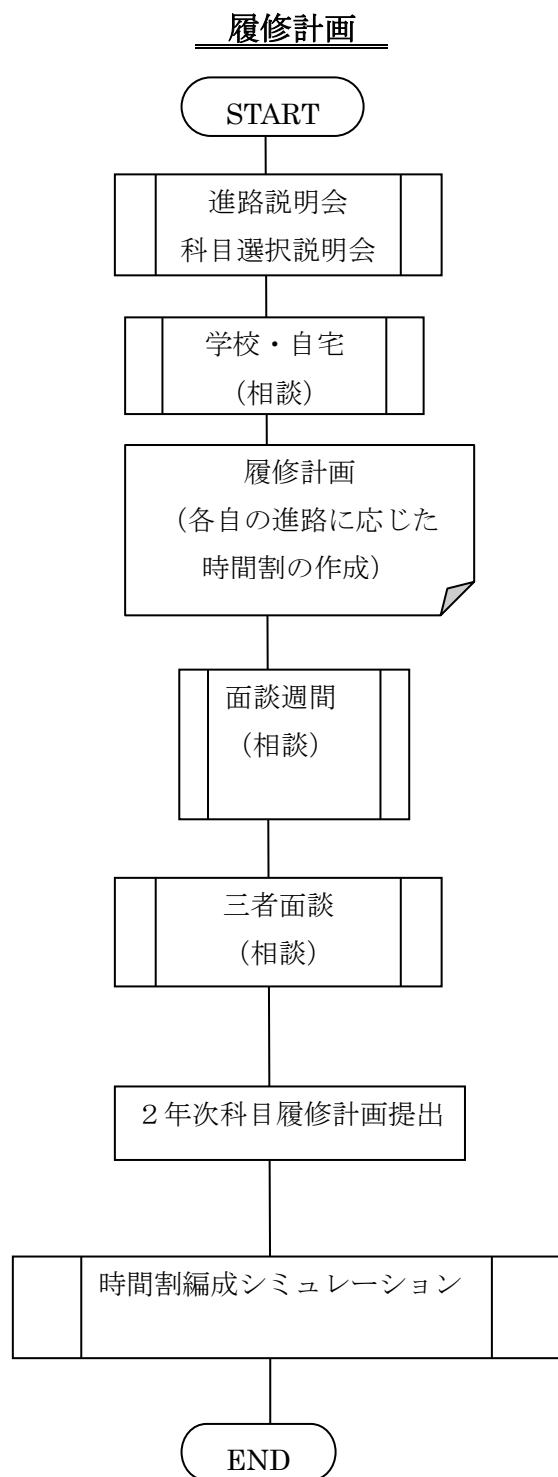
ただし、学校外での学修による単位認定（ユニティ高大連携講座に参加すると修了証の交付があれば1単位認定）や、ボランティア活動等（キャリアセンターに申請）の単位認定の合計が20単位を超えることはできません。

また、同じ検定においては最上級の資格にのみ増加単位を認めます。

※ 対象とする技能審査等の種類と、対応する科目及び増加単位数等は、下記の表の通りです。

技能審査等の種類	級・種類	対応する科目	増加単位数	実施団体名等
日本漢字能力検定	2級	「論理国語」	3単位	(財) 日本漢字能力検定
	準2級	「現代の国語」	2単位	
ニュース時事能力検定	2級	「公共」	2単位	日本ニュース時事能力検定協会
	準2級		1単位	
実用英語技能検定	準1級	「英語コミュニケーションⅠ」	いずれかの科目に 4単位	(財) 日本英語検定協会
	2級	「英語コミュニケーションⅡ」	3単位	
	準2級	「英語コミュニケーションⅢ」	2単位	
数学検定	2級	「数学Ⅱ」	3単位	日本数学検定協会
	準2級	「数学Ⅰ」	2単位	
全国高校 保育技能検定	1級	「保育実践」	2単位	(財) 全国高校家庭科教育振興会
	2級		1単位	
簿記実務検定	1級 会計	「簿記」	2単位	全国商業高等学校協会
	1級原価計算	「原価計算」	2単位	
簿記検定	2級	「簿記」「原価計算」	それぞれに2単位	日本商工会議所
ITパスポート試験（レベル1）		「情報処理」	いずれかの科目に	情報処理推進機構
情報処理検定	1級	「ソフトウェア活用」	2単位	全国商業高等学校協会
基本情報技術者試験		「情報処理」	2単位	情報処理推進機構

9 科目選択・履修登録の流れ（予定）



10 観点別評価について

(1) 観点別学習状況の評価について

①「知識・技能」、②「思考・判断・表現」、③「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点について、各教科等において設定されている評価規準と照らして、「十分満足できる」状況と判断されるものを『A』、「おおむね満足できる」状況と判断されるものを『B』、「努力を要する」状況と判断されるものを『C』の3段階で評価します。

①「知識・技能」の評価について

「知識・技能」の評価は、各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行います。また、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価します。具体的には小テストや定期考査、観察・実験・実技検査などの結果を総合的に判断して評価します。

②「思考・判断・表現」の評価について

「思考・判断・表現」の評価は、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価します。具体的にはペーパーテストや、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の活動など通して総合的に評価します。

③「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかを評価します。特に、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしているか、また粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとしているかを主に評価します。具体的には、ノートやレポート等における記述、授業中の発言・行動、皆さん自身による自己評価や相互評価等の状況などを総合的に判断し、評価を行います。

なお、観点別学習状況の評価や評定には示しきれない一人一人のよい点や可能性、進歩の状況については、「個人内評価」として学習改善につなげる手がかりとして利用し、観点別学習状況の評価の対象には含めません。

(2) 評定について

評定は、各教科等の観点別の学習状況の評価を総括したものです。高等学校学習指導要領等に示す各教科・科目の目標に照らして、年度末にその実現状況を「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるものを『5』、「十分満足できる」状況と判断されるものを『4』、「おおむね満足できる」状況と判断されるものを『3』、「努力を要する」状況と判断されるもの『2』、「努力を要すると判断されるもののうち、特に程度が低い」状況と判断されるものを『1（修得不認定）』という数値で示します。なお、前期末には、学習の途中経過として評定のもとになる『評点』を100点法で示します。